

価値創造の軌跡

1926年 ▶ 「井関農具商会」を創立
1936年 ▶ 「井関農機株式会社」を設立



1946年 ▶ 松山工場を設立
1949年 ▶ 熊本工場を設立

1958年 ▶ 系列販売会社の設立を開始。
以降、販売会社を日本全国に展開
1961年 ▶ 新潟工場を設立
▶ 東京証券取引所に株式を上場
1969年 ▶ 東京支社を本社事務所と改称
1971年 ▶ ブラッセルにN.V. ISEKI Europe S.A.を設立
1972年 ▶ 松山工場を増設、
本社を同所に移転
1977年 ▶ 茨城県に中央研修所
を設立



2001年 ▶ 製造部門の分社により、株式会社井関
松山製造所、株式会社井関熊本製造
所を設立
2003年 ▶ 中国江蘇省に井関農機（常州）有限公
司を設立



2011年 ▶ 中国湖北省に東風井関農業機械（湖北）有限公司を設立
2012年 ▶ PT.ISEKI INDONESIAを設立
2013年 ▶ ISEKI・テクニカル・トレーニング・センター（ITTC）を設立
▶ ISEKI SALES（THAILAND）CO.,Ltd.を設立
2014年 ▶ 井関常州と東風井関を事業統合し、東風井関農業機械有
限公司を設立
▶ フランス代理店Yvan Beal S.A.S、YB Holdig S.A.S（現：
ISEKI France Holding S.A.S）の子会社化
2015年 ▶ 夢ある農業総合研究所を設立
2016年 ▶ ISEKI（THAILAND）CO.,Ltd.を設立
設計基本技術トレーニングセンター（IETC）を設立
2017年 ▶ ISEKIグローバルトレーニングセンター（IGTC）を設立
2020年 ▶ タイ販売会社 IST Farm machineryを子会社化

1926年

1945 — 1950年代

1960 — 1970年代

1980 — 1990年代

2000年代

2010 — 2020年代以降

主な社会課題・ニーズ

▶ 戦後の食糧増産
▶ 高度経済成長期のはじまり

▶ 高度経済成長期、都市部への人口集中
による農業労働人口の減少
▶ 農業の近代化

▶ グローバル化の進展
▶ 農業従事者の減少、高齢化の進展

▶ 食の安心・安全への関心の高まり
▶ 食料自給率向上
▶ 農業の持続的発展

▶ 農業経営の大規模化
▶ 農業従事者の減少、高齢化の進展
▶ 農作物の高付加価値化

井関グループのソリューション

▶ 食糧増産を支える農業機械の開発と普及

▶ 農業機械の大型化と多様化
▶ 稲作の機械化一貫体系の確立

▶ 省力、低コスト農業に貢献する
機械の開発
▶ 野菜作における機械化

▶ 生産性向上に貢献する大型機械の
開発
▶ 営農提案・サポートなどソフト面の
強化

▶ 先端技術やデータを活用した
スマート農業の実現
▶ 環境保全型農業の推進

1926年▶
全自動籾摺機

自動選別機に籾はぎ機を取り付けた
全自動籾摺機を開発。

1965年▶
日本の湿田に適したトラクタ

国産トラクタとして抜群の性能を
備えたトラクタTB20を開発。富
士山登頂も成功。

1966年▶
世界初の自脱型コンバイン

稲の刈取りから脱穀までの作業時間
を16分の1に短縮。高能率、小型軽
量、手ごろな価格で人気となり、生
産が追いつかない状況が続いた。

1967年▶
欧州向け耕うん機の販売

当社の欧州事業のスタートとなった
耕うん機の輸出・販売を開始。日本
で培った技術を海外へ展開。

1971年▶
後傾苗タンク式歩行田植機

プラスチック製フロートを使用した
2輪後傾苗タンク式歩行田植機の開
発に成功。田植機の代名詞「さなえ」
の誕生。

1988年▶
当社初の乗用モア（芝刈機）

ディーゼルエンジンを搭載した本格
仕様の乗用モアであり、欧州の景観
整備市場でISEKIブランドの高いポジ
ションを確立させたモデル。

1988年▶
野菜作の機械化へ。「ナウエル
システム」の誕生

紙ポットと培土を中心とした当社独
自の野菜苗「ナウエルポット苗」と
その苗を植える全自動野菜移植機
「ナウエルPV101」を開発。

2009年▶
業界最速の自脱型コンバイン

当時業界最速の最高作業速2.0m/s
の6条刈りコンバインを開発。業界初
となる7条刈りコンバインを開発。

2014年▶
欧州向けセンターコレクト型
乗用モア（芝刈機）

小回り性に優れた日本製初のセンター
コレクト型の高馬力フロントモアSF4
シリーズ。プロユーザーのニーズに応
える欧州向け景観整備用機械の旗艦シ
リーズ。

2015年▶
業界初！植物生育診断装置

植物の光合成能力を計測し、人の目では確
認できない植物の状態をデータ化。病害を
未然に防ぐなど、最適管理・生育に貢献。

2016年▶
業界初！可変施肥田植機

田植えと同時に適切な施肥量にコント
ロールする画期的な田植機。肥料コスト
低減や倒伏低減に貢献。

2018年▶
ロボットトラクタの開発

有人監視下での農作業の超省力化を実
現。未来農業への大きな一歩となる農業
機械。

